

鎌倉夢プロジェクトの会を代表しまして、議案第 91 号平成 28 年度鎌倉市一般会計予算外 21 議案につきまして質問いたします。

理事者の皆様方には明快なるご答弁をよろしくお願いいたします。

今回の代表質問をするにあたって鎌倉夢プロジェクトの会では「温故知新」をテーマとして質問を組み立ててみました。

さて、「温故知新」と言えば論語の一部から抜粋された四文字熟語であり、日本人にとってもっともポピュラーな四文字熟語の 1 つであると言えます。四文字熟語データベースには、「経験のない新しいことを進めるにも、過去を充分学ぶことから知恵を得よう」ということ」とその意味が書かれております。しかし、「温故知新」の原典である論語には「子曰く、故（ふる）きを温（たず）ねて新しきを知る、以って師と為るべし」と書かれており、その現代語訳を見ますと、四文字熟語の「温故知新」とは若干意味が違っているように思われます。つまり、論語の口語訳では「孔子先生はおっしゃいました。古くからの伝えを大切に、新しい知識を得てゆくことができれば、人を教える師となることができるでしょう。」となります。

松尾市長もご自身の発行する機関誌に「温故知新」という表題をつけておりますので、古くからの伝えを大切にしながら新しい知識を得て人を教える師となることをめざしていると思います。

私たちが「古くからの伝え」に触れる際に気を付けたいことは「古くからの伝えだから正しい」さらに「古くからの伝えを大切に、得た知識だから正しい」と思いこんでしまうことです。伝統や歴史に裏付けされた事柄はとても魅力的なものですから、そのように私たちが感じるのも無理はありません。しかし、「温故知新」から得られる結論は「人を教える師となることができる」であって、師から教えられた事柄が正しいのか？または正しくないのか？については私たち各自が判断しなければなりません。そして、その検証作業は必要不可欠なものであると言えます。

鎌倉は永い歴史が息づく街です。「古くからの伝え」と一言で言っても、「古くから」とは一体いつの時点を目指すのか？武家政権が誕生した中世の時点を目指すのか？保養地として別荘が建てられた近代の時点を目指すのか？我が国初のナショナルトラスト運動が起こった昭和の頃の時点を目指すのか？広義にとらえれば、鎌倉市の総合計画も古くからの伝えの 1 つであると言えるかもしれませし、私自身に関して言えば自分が生まれた昭和 30 年代後半の頃が最もしっくりとくる「古くから」の原点であると言えるでしょう。

今回は鎌倉市における様々な施策が「温故知新」という観点から見てどうなのか？その検証作業という意味も含めて質問をすすめてゆきたいと思います。

それでは質問にうつってまいりたいと思います。

## 【市民自治】

鎌倉市民は昭和 30 年代中ごろに「昭和の鎌倉攻め」といわれる宅地造成に対し、我が国初のナショナルトラスト運動を結実させました。それが「古都保存法」制定の契機となり、豊かな緑を背景とした社寺景観の保全へとつながりました。また様々な都市問題を解決するために明治期に発足した同人会という市民団体は、平成 27 年に創立 100 年を迎えました。社会貢献をしてきた市民の団体として 100 年の歴史を持つ同人会は全国的にも稀有の存在です。

自らが先頭にたち鎌倉の問題解決に向けて取り組もうとする、鎌倉にはそのように志の高い市民が多く存在していることを「古くからの伝え」は物語っております。そして市民の高い志をどのように行政と結び付けてゆくかが大切なことです。

市では今泉台で実践してきた「長寿社会のまちづくり」という素晴らしい取組があり、それを他の住宅地へと展開しようとしており、現在の姿勢は高く評価できます。地域での自主的な活動を促進する意味においても、このような取組内容を市から地域に上手にバトンタッチしてゆくことも大切です。

- ・この「長寿社会のまちづくり」という新しい取組がどのような結果をもたらし、また今後はどのような地域に広めてゆくのか？お考えをお伺いします。
- ・また、これらの取組内容をどのようにバトンタッチしてゆくのか？どのようなペースですすめてゆくつもりなのか？お考えをお伺いします。

次に「大船地域づくり会議」についてお聞きします。

大船地域づくり会議は、市民協働の新しい型として、地域住民と地域で活動している団体、それと市が地域課題について自ら発見し、自ら考え、自ら解決していかうとする場として平成 24 年 10 月に発足しました。

- ・発足から 3 年以上経過しましたが、その成果はどういう状況ですか、また今後他の地域へはどのように展開して行こうと考えていますか？お伺いします。

具体的な内容もお伺いしますが、平成 25 年平成 26 年度は HP わがまち大船ニュースの解説と運営、さらに平成 27 年度には災害時における避難所運営ルール作りを行ったとのことですが、

この災害時とはどのような災害を想定しているのでしょうか？大船という地名はこの地域が水害の発生しやすい場所であることを伝えていきます。例えば平成 26 年 10 月の台風 18 号で大船は時間最大雨量 50 ミリを記録し雨が止んだ後になっても大船駅東口のバスロータリー周辺で水があふれ出ていたことは記憶に新しいところです。その時には鎌倉市内全域で延べ 208 人の避難者が発生しております。

- ・災害時における対応という点につきまして、大船という地域特性を踏まえた

内容、たとえば水害発生時の対応などについても重点的に検討していただけたらと考えますがいかがでしょうか？

・また、JR大船駅は鎌倉市と横浜市栄区にまたがった駅であり、災害が発生した場合の対応や帰宅困難者への対応には両市の連携が必要であると考えます。大船という地域特性から鎌倉市単独の対応だけでなく近隣自治体や近隣地域との広域連携も大切だと思いますがいかがでしょうか？

また、市民協働推進条例についてお聞きします。

・昨年9月議会で、わが会派から「協働によるまちづくり」が重要であり、それを推し進めるための市民協働推進条例の制定を求め、市長から前向きなご答弁を頂戴したところですが、具体的にどのように進めようとしているのか、また、いつの制定を目指しているのかお伺いします。

次に支所の役割についてお伺いします。

大船地域づくり会議の支援は、大船支所が中心になって行ってきました。地域住民と支所は以前から密接な関係にあり、その役割も重要です。

さて、鎌倉市小袋谷にはかつて旧大船村役場がありました。明治22年の町村制の施行により大船村、小袋谷村、台村、今泉村、岩瀬村、などが合併して小坂村が発足しました。さらに昭和8年2月11日には小坂村が町制を施行し大船町と改称、同年4月1日には玉縄村が大船町に編入されます。旧大船村役場ではこれらの地域の行政運営に関わっていたようです。

これらは全て昭和14年に鎌倉市が発足する前の話です。

旧大船村役場は保全運動がおこりそうなほど風情のあるレトロな建物でした。後にこの旧大船村役場が鎌倉市役所大船支所となり、昭和49年に支所としての機能が小袋谷の旧レイウエルに移転したことから、その後は市の埋蔵物保管所や選挙の投票所として使われていました。そして平成22年に解体されて現在は存在していません。

このように、時の流れとともに支所の場所や支所の機能は変遷を繰り返してきました。平成28年1月から利用が開始されたマイナンバー制度によっても、今後市民の生活や行政の業務さらには支所の存在意義そのものも大きく変わることが考えられます。

・これら社会的状況の変化に合わせ支所の役割も早急に見直すべきだと考えます。個人番号カードを活用しコンビニで各種証明書を発行する自治体もあるようです。鎌倉市もこのような対応をすべきであると考えますがいかがですか？

平成25年度からコンビニを通しての公金収納を始め、市民の利便性を高めていただいているところは評価できると思います。そして、

・多くの市民にとっては各種証明書の発行が近所のコンビニでできるようになれば、わざわざ支所や市役所に行く必要がなくなると考えられます。そうなれば職員も大幅に減らすことができると考えますいかがでしょうか？第4次職員適正化計画の進捗状況と合わせて今後の方向性についてお聞かせください。

### 【行財政運営】

次に民営化についてお伺いします。

鎌倉市ではこれまで平成11年からの「かまくら行革プラン」を始めとして、民間のノウハウによるサービスの向上と効率的な運営をめざし、指定管理者制度の導入やゴミ収集、保育園運営業務、小学校警備業務、学校給食調理等業務などにおいて民間への業務委託をすすめてきており、多くの財政効果をあげてきたことは評価できます。

今後も民間でできることはできる限り民間委託を推進してゆくべきでありその余地はまだあると考えます。民営化を進めるためには、最終形を見据えた職員数を考えて採用を行うなど、定数管理を行わなければなりません。

・現在技能労務職は退職者不補充としておりますが、保育士に関しては採用を続けていると聞いています。保育園については現行の拠点園が必ずしも公立である必要性はなく民営化にシフトすべきだと考えますがいかがでしょうか？

・今後の保育園民営化の考え方と定数管理をどのように考えているのかお伺いします。

・また、他都市において「児童発達支援センター」の多くは民間が運営しております。鎌倉市も「児童発達支援センター」は運営を民間にまかせるべきであると考えます。他都市では実施できているのに鎌倉市で実施できない理由は何ですか？今後、鎌倉市ではこの施設をどのようにしていかれるのか教えてください。

次に過去の職員不祥事に関して質問します。

過去の不祥事を教訓に、全職員がそのことを我が事と考え、再発防止に如何に取り組むかが不祥事を起こさせないために重要なことと考えます。

さて、松尾市長が市長に就任された

・平成21年11月から今日までに議会に報告された不祥事は18件ありました。どの部所の職員で、どのような内容であるかによって対応は違うと思いますが、それらの不祥事に対し、全庁的な取り組みはどのように行って来ましたか？

・夫々の課長、次長、部長はどのように行動しましたか？副市長や市長はどのような指示をしましたか？お聞かせください。

・内容別に見ると飲酒にまつわる案件が6件、ワイセツ行為にまつわる案件が5件となっておりますが、これらの案件への対策は、どのようにされましたか？

・部所別で見た場合、18件中6件が教育委員会、4件が消防と突出しています。外局と言う要素や特殊な勤務体系があるのでしょうか。どう解析しているのかお伺い致します？

公務員といえども社会の縮図なりに一定の不祥事が起きても不思議ではありませんが、されど公務員です。限りなく0になるように対応をするべきです。

・一件不祥事が起きたら、全ての課で検証するなど、我が事運動を展開する事が温故知新の精神に近づく道と思いますが、今後の取り組みに関して市長のお考えをお伺い致します？

### 【歴史的遺産と共生するまちづくり】

次に歴史的建造物についてお伺いします。

「古くからの伝え」を視覚によって確認することができ、実在する物体として認識することができるもの、それが歴史的建造物であり、それらは鎌倉にとって大切な資産であることには間違いがありません。しかし、それらのすべてを残し守り続けることは現実的には困難です。その資産を残すべきか否かについては、財政的な観点から、また文化的な観点から、歴史的な観点から等々よく検討する必要があると思います。

そのような状況の中、昨年、御成旧講堂、旧図書館を保存するための基金を創設しました。

・市民との協働による歴史的建造物の保全の新しい形態との説明があり、非常に期待しておりますが、寄付を集めるためにどのような取組を予定しているのか教えてください。

次に郷土芸能についてお伺いします。

昨年12月に発行された「鎌倉市歴史的風致維持向上計画」によれば、歴史的建造物も鎌倉のまちにとって重要な要素として紹介されておりますが、歴史及び伝統を反映した人々の活動として「御霊神社の面掛行列」や「鎌倉木遣唄」「鎌倉神楽」が無形文化財として紹介されています。また無形文化財の指定を受けていない祭囃子や田植え唄などの郷土芸能についても平成27年時点で22団体により「鎌倉市郷土芸能保存協会」を組織して活動しているとしています。

しかし、

・鎌倉市内では22団体より多くの団体が郷土芸能の保存継承活動を行っていると思われま。す。「鎌倉市郷土芸能保存協会」に加盟されずに郷土芸能活動を保全されている団体についてはどのように把握され、どのように対応されておりますか？また加盟されていない団体に対して加盟するような勧誘活動などは行っているのでしょうか？お伺いします。

次に社寺における行事についてお伺いします。

「鎌倉市歴史的風致維持向上計画」によれば「生きている歴史的遺産」「鎌倉の歴史的風致の基盤」として「社寺における祭礼・行事にみる歴史的風致」をあげています。

すなわち、鎌倉幕府を中心に建立された社寺は現在も宗教活動を継続している「生きている歴史的遺産」であり、社寺の存在自体が鎌倉の歴史・文化の源泉であると同時に、他の歴史的風致の形成基盤となっていると思います。

そして、社寺における年末の行事の1つとして「除夜の鐘」があります。「除夜の鐘」については「社寺における祭礼ではないため」「鎌倉市歴史的風致維持向上計画」にはそれについての記載が見当たりません。一方「大祓いと初詣」に関しては「社寺における祭礼」として記載があります。確かに「除夜の鐘」をつく行為は「祭礼」とは無関係ですが、「大祓いや初詣」と並んで私たちが社寺で行ってきた行事として歴史的に意味のあるものであると思います。

昨年、あるTV番組で「除夜の鐘の音がうるさいとお寺にクレームが入ったため、そのお寺では除夜の鐘を中止してしまった」という内容の報道を見ました。音に対する感じ方には個人差がありますので一概に言えることではありませんが、除夜の鐘の音やお祭りの太鼓の音などは1年のうち、限られた時にだけ聞こえてくる音、すなわち「生きている歴史的遺産」であり、鎌倉にとっては大切な財産のひとつであると考えます。

「除夜の鐘の音」や「お祭りでの太鼓や笛の音」は「音響機器のスピーカーから流れてくるただの音」とは違います。その音の背景には何十年、何百年とかけて培ってきた伝統や文化そして人々の営みがあるのです。修行僧が毎日のお勤めをする中で作られてきた音や、地域の人々が練習を積み重ねながら何十年、何百年もの時間をかけて代々受け継いできた音である訳です。そこでお聞きします。

鎌倉市に対して

・「うるさいから除夜の鐘をつかせるな」といった内容のクレームが入ったことはありますか？

・また、「社寺における祭礼や行事」において出される音に対するクレームについて市では今後どのように対応されてゆく予定ですか？

この番組内で紹介された寺院では12月31日の深夜に除夜の鐘をつくのではなく、夕方に除夕の鐘（じよせきのかね）として鐘をつくようにしたということです。ご住職は「クレーム対応もでき夕方だと多くの方がお寺を訪問されるので良い」というような内容のコメントを残されておりましたが、これを時代の風潮と取るか、歴史的遺産の喪失と取るかは我々の判断次第ということになりますが、歴史と文化を貴ぶこの鎌倉において「除夜の鐘の音が聞こえない大晦日」や「太

鼓や笛の音が聞こえない祭の日」が来ることを、私は想像することができません。

### 【生活環境】

次にゴミ処理施策についてお伺いします。

鎌倉のごみ処理事業の歴史は古く大正7年(1918年)2月に「町営の清掃所・じん芥焼却場設置」から始まっています。近年では平成8年度に、ごみ半減都市宣言・ごみ半減計画を策定し、平成9年度にはごみの5分別を開始しました。その後、平成13年度にごみ半減計画の見直しがされましたが、平成16年度にはリサイクル率で全国第1位(人口10万人以上)を獲得しました。この結果は、焼却ごみの削減に努め、分別を徹底した市民及び事業者の皆様のおかげであると認識しております。そして今もなお、鎌倉市は、「循環型社会」を形成するため、市民、事業者、行政が連携・協働して3R(リデュース・リユース・リサイクル)を推進し、廃棄物の焼却量や埋め立てによる最終処分量を限りなくゼロに近づける「ゼロ・ウェイストかまくら」の実現を目指しています。

これからは3Rのうち、ごみの発生抑制であるリデュースに特に力を入れて取り組んでいくべきであり、そのための施策に家庭系ごみの有料化や戸別収集があります。有料化は昨年4月から実施され、有料化実施前は「大幅な減量効果は期待できないのではないか」などの声もありましたが、市は他市の減量効果等から試算し約8%の減量効果を見込んでいました。しかしながら、予想以上に大幅に減量し、現在までの実績を踏まえると約15%が削減できると積算しています。つまり、あらためて鎌倉市民のごみ減量へ向けての取り組みがデータとして示されたこととなります。

これまで焼却ごみは二箇所を受け入れを行って来ましたが、今泉を廃炉にしたため焼却量を年間3万トン以下にする目標を立て取り組むことになりました。ごみの収集量から試算してあと2600トンの削減が必要な状況です。

今後、減量施策を考える中で、

・戸別収集の実施を目指すためには、まずコストの削減という課題があります。そのことに加えて市民の皆様のさらなる理解を深めることが必要であり、そのためにはアンケートを実施するだけでなく直接会って話す機会を多くするべきです。そして戸別収集について説明をするならば、モデル地区で戸別収集を経験した方々の声を届けるのが一番だと思います。戸別収集への理解を求め広げていくためにも、その様な説明会をより多く開催すべきと考えますがいかがでしょうか？

アンケート結果からも戸別収集実施前と実施後では大きく考えが変わったのも確かであり、実施に向けての不安な点や対策などを市民が聞くことで理解が深まるはずです。

また、

・事業系ごみの減量施策として、小規模事業者の排出の適正化に向けて事業系ごみと家庭系ごみの区別の徹底をお願いするため、大和市などで行われているように事業系の有料指定ごみ袋を作成し排出していただくべきと考えますがいかがでしょうか？

そして、ごみの減量に関しては環境学習の視点で教育を行うことも大事です。  
例えば

・学校に家庭用生ごみ処理機を設置して、家庭科の調理実習などで出たごみの量を把握し、排出したごみはどの様に処理されているか、自分たちもかかわっていることを認識し、ごみ減量に向けてどんなことができるかを自ら考える機会を設けることが大切だと思いますがいかがでしょうか？

### 【健康福祉】

次に生活困窮者の自立についてお伺いします。

バブル景気に日本中が沸いた 1990 年代初めまで「日本は貧富の格差が少ない平等な国」と信じられていました。アメリカの経済学者が「日本は世界で最も成功した社会主義国だ」とつぶやくほど国民の大部分が「中流階級」と認識している国でした。

しかし、1991 年バブル崩壊のころから日本国民の中流階級意識は緩やかに崩れ始め、現在では「生活が苦しい低所得者層の増大」が問題となっており、さらにはこれからの日本を担う子どもたちの 6 人に 1 人が貧困にあえいでいるといわれております。貧しく教育への関心が低い家庭で育つと、学力も自己肯定感も低いままになる、そうして連鎖された貧困が日本の未来に暗い影を落とすと言われております。

平成 27 年 4 月から施行している生活困窮者自立支援法に基づき、鎌倉市でも平成 27 年度は必須事業を実施してきました。

文部科学省では「生活困窮者自立支援制度に関する学校や教育委員会と福祉関係機関との連携について」という通知の中において、「この制度では貧困の連鎖を防止するため、生活困窮者の児童生徒等に対する学習支援や保護者への進学助言を行う学習支援事業を実施する」としています。

・生活困窮者自立支援法に基づく業務に関して必須事業だけでなく任意事業である学習支援事業を積極的に実施すべきかと思いましたがいかがですか？

・そして、学習支援事業実施時における学校や教育委員会との連携はどのようにすべきとお考えですか？

・また、学校や教育委員会は学校支援事業実施時において健康福祉部とどのように連携すべきだとお考えですか？



## 【スポーツ・レクリエーション】

次にスポーツ施設についてお伺いします。

1924年大正13年には日本人が中心となって設立したクラブとしては日本初のテニスクラブが鎌倉市役所近くにありました。その場所は現在高級志向のスーパーマーケットとなっております。そのテニスクラブでプレーをなさっていた方の中には天皇皇后両陛下もいらっしゃり、その当時の様子を「天王皇后両陛下が、年に一回だけ、鎌倉の老舗テニスクラブにお忍びでプレーをしに来られた。」とブログに書かれている方がいらっしゃいます。私の個人的な感覚としまして、錦織選手をはじめとして現在日本のテニス界で活躍している選手の姿から、テニスには明るく軽快なイメージがあります。また現天皇皇后両陛下がテニスをされていた映像をTVで見たことがあるためか、テニスには少しハイソサエティなイメージもあります。現在でも避暑地や別荘地でプレーされることが多いことも一因でしょう

今の時代からしてみれば、サッカーや野球がスポーツの王様でしょうが、「古くからの伝え」という視点からは、テニスのように鎌倉の地において盛んにプレーされてきた競技に目を向けることも大切なのかもしれません。

そこで質問ですが

・山崎浄化センター建物上部に建設予定のスポーツ施設には例えばテニスのように鎌倉の地で以前からプレーされてきたスポーツの施設を建設していただけたらと思いたいのですがいかがでしょうか？

また、かつては皇族など一部の人が楽しんだスポーツも、現代では多くの方が楽しんでおります。スポーツは単なる楽しみ・レクリエーションという側面よりも、健康づくりのツールとしてとらえられつつあります。深沢地区ではウェルネスというテーマで健康長寿を実現できる街をつくらうとしています。そして

・前期実施計画においては「深沢地域国鉄跡地周辺におけるグラウンド整備をはじめ、総合体育館等のスポーツ施設整備に向けた検討をすすめる」としておりますがグラウンド整備事業の位置づけや、総合体育館整備計画の策定についてはどのようになったのでしょうか？現在の検討状況と今後のスケジュールについて教えてください。

次に、オリンピックの競技種目であるセーリングについてお伺いします。

2020年東京オリンピック・パラリンピックでは藤沢市の江の島がセーリングの会場となることが決まりました。

そもそも

・鎌倉市では2020年東京オリンピック・パラリンピックに関する情報はどの程度入手しているのでしょうか？競技の内容や行われる場所、時期、また、市の役

割など具体的な指示が出ているのでしたら教えてください。

江の島でのセーリング競技開催が決まったことを受けて「他人任せではなく市民が主体的に関わって大会を成功させよう」と今年の1月16日に「江ノリンピック盛り上げ隊」が発足し第1回の会合が円覚寺塔頭佛日庵で開催されたそうです。この会合では「オリンピック後の未来をデザインする」「オリンピックを楽しむ」を理念としてアイデアを出し合ったそうですが、1964年東京オリンピック当時はオリンピックをどのように楽しみ、オリンピック後の未来はどのようになるとデザインしていたのでしょうか？

東京オリンピックが江の島で行われた翌年の1965年には日本で始めて本格的なジュニアヨットクラブが江の島に誕生しました。52期生を迎え、現在でも活動を続けているこのジュニアヨットクラブでは、子どもでも扱いやすいOP級（オプティミストディンギー）という超小型のヨットを始めて日本に導入し、小学生から高校生迄一貫しての教育を行っております。このことが江の島から逗子、葉山といった湘南地域にマリンスポーツの文化を根付かせた一因であると言えるかもしれません。その証拠に逗子には全国でも数少ないヨット部を持つ中学校があります。

ハーバーに停泊中である船の移動の問題や宿泊施設の問題等々、どちらかというところハード面での課題が話題にあがることが多い「江の島でのセーリング競技」ですが、マリンスポーツに親しむ文化をどう広げてゆくかといったソフト面での課題のほうが「オリンピック後の未来」について考えた場合大切なことなのかもしれません。

そこで江の島で行われるセーリング競技についてお伺いします。

・江の島でのセーリング競技は江の島周辺から七里ヶ浜、由比ガ浜、逗子、葉山にかけてレースが行われるそうです。鎌倉の目の前の海でレースが繰り広げられるわけですが、沖合で繰り広げられるそのレースを鎌倉市民に楽しんでもらうにはどのようにすれば良いとお考えですか？

レース会場となる海域には、当然何らかの規制がされることではと思いますが、レースの臨場感を味わうためには漁船等をチャーターして会場近くで観戦するという方法も考えられます。それらの方法について漁業関係の方々との調整も必要となってくるでしょう。

また

・セーリング競技が開催されている最中、レース会場周辺では漁ができなくなることが想定されます。漁の操業という点について漁業関係の方々との調整はどのようにされてゆく予定ですか？

また

・「江ノリンピック盛り上げ隊」の第1回会合ではオリンピックを楽しむために、

那須与一<sup>なすのよいち</sup>ではありませんが「ヨットで流鏑馬」「鎌倉大仏での表彰式」といったユニークなアイデアも出されたようです。鎌倉市として「オリンピックを楽しむ」にはどのようにしたら良いとお考えですか？

・そして、鎌倉市としては「オリンピック後の未来」をどのようなデザインとして描いておられますか？お聞かせください。

次に海水浴場についてお伺いします。

鎌倉には由比ガ浜、材木座、腰越などに海水浴場があります。例えば由比ガ浜海岸は明治17年内務省衛生局長、長与専齋<sup>ながよせんさい</sup>氏により開設されて以来、海水浴のメッカとしてにぎわい続けてきている由緒ある海水浴場の一つです。海水浴場は砂浜で遊んだり、海で泳いだりする海岸であり、子どもから大人まで楽しめる場所であることは昔も今も変わっておりません。しかし、近年は一部のマナーの悪い人達のために、規制やルール作りを行うことが必要になるなど、誰もが自由に安心安全に過ごせる場所ではなくなっています。そのような環境や時代の変化により、子どもたちにとって海の魅力が薄れてきており、昔に比べて夏休みに海に行く子どもたちが少なくなっていると思います。「子どもたちが海に行って思い出を作る」そんな場所にしていくためにも、子どもたちにとって魅力ある安心して楽しめる海水浴場とすべきです。

例えば、

・昨年取り組んだ「海の安全教室」や「砂像づくり」は、子どもが楽しみながら様々な知識や経験を得ることができる素晴らしい取り組みでした。このような子ども向けのイベントの実施を昨年以上に取り組んでいくべきだと思いますが、いかがでしょうか？

・また、子どもたちが安心して利用できる海の家の出店も良い方法だと思いますが、いかがでしょうか？

海を楽しむという点では、昔は大音量の音楽などは、かかっておらず波音を聞くことができた場所も今よりずっと多くありました。現在はイベントや海の家での音楽が当たり前になってきており、砂浜を歩いていると、どこにいても様々な音楽が聞こえます。音楽自体を否定するわけではありませんが、やはり波の音を聞きながらのんびりしたい方もいらっしゃいます。

・夜に「波音タイム」を設けるなど新たな試みで海水浴場の魅力を創出しましたが、夜の時間だけでなく、昼はファミリービーチ付近だけでも音楽がもれてこないようにすると、また新たな海水浴場の魅力を高めることになると思いますがいかがでしょうか？

誰もが安心して訪れることができる海水浴場こそ、昔から親しまれている鎌倉の海であると思いますので、よろしくお願ひします。

## 【防災・安全】

次に市内に残る戦争の傷跡についてお伺いします。

2005年に鹿児島市内の防空壕で中学生の一酸化中毒での死亡事故がありました。その事故により国土交通省は全国計5003箇所の防空壕跡を封鎖するように各自治体に通達し、各地で防空壕が封鎖されたとのことでした。

深沢の旧JR工場跡地には先の太平洋戦争中魚雷の製造工場がありました。また山崎天神下交差点近くにある工場では赤とんぼと呼ばれた練習機や終戦間際に横須賀の基地で実験が繰り返されていた秋水というジェット戦闘機のプロトタイプが製造されていたそうです。

つまり大船から山崎、深沢にかけて広がる地域には軍需工場や軍に関係する施設が多くあり、その周りには多くの防空壕が掘られておりました。人間が避難する防空壕というよりも工場の機械や製品を非難させるための防空壕だったようです。

旧大船自動車学校跡地には戦闘機につける照準器を製造する工場があったと聞いています。その裏手にある崖地には多くの防空壕が掘られており、照準器につけるプリズムが落ちているらしいから拾いに行かないか？と小学生の頃、友人に誘われたことがあります。しかし、防空壕内にはゲジゲジがたくさん住んでいると聞き、虫が苦手な私はプリズムを拾いに行けず悔しい思いをしたことを記憶しております。

子どもの頃の私たちがそうであったように、鹿児島市内の防空壕で一酸化中毒死した中学生たちも気軽に防空壕内に足を踏み入れたことと思います。

かつては私たちを空襲の危険から守るために掘られた防空壕が、現在では大変危険な存在になってしまいました。

・鎌倉市内には太平洋戦争中、軍が関与し作られて現在も残っている防空壕は何箇所くらいあるのですか？

・また、それらをどのように把握され、今後はどのように対応されてゆくのでしょうか？

太平洋戦争中、民間が各自で掘って現在も残っている防空壕は何箇所くらいあるのですか？

・また、それらをどのように把握され、今後はどのように対応されてゆくのでしょうか？

鹿児島市内での事故は防空壕の存在を近隣住民が知らなかったから起きたとも言われています。

・鎌倉市内の防空壕について近隣住民への周知はなされていますか？

## 【市街地整備】

次に鎌倉駅周辺の整備や未利用施設の整備等についてお伺いします。

今から40年ほど前、私が高校生の頃、学校帰りにはよく鎌倉駅の東口や西口のお店に寄り道をしていました。確かに当時から観光客目当てのお土産屋は小町通に多く存在していましたが、現在ほどではなかったように思えます。

小町通の入り口近くにはレコード屋があったり、レコード屋のとなりにある喫茶店には教頭先生が常連として陣取っているので注意すべしという情報がクラス内に流れたり、西口の映画館では2本立てのロードショーを観たりと、鎌倉駅周辺は現在よりはもう少し地元住民向けの店が多く、鎌倉の文化の香りが漂っていたように記憶しています。

・現在でも旧駅舎のイメージを残した新駅舎が鎌倉の風情を残していますが、駅前広場の整備にあたって、ぜひ鎌倉らしい風情や文化を残した整備をすすめていただきたいと思いますがいかがでしょうか？鎌倉の玄関口である駅前広場の今後の整備イメージとスケジュールを教えてください。

・また駅前、特に鎌倉駅西口の駐輪場対策が急務であると思いますが、どのような計画でいつ対応するのか教えてください。

また、1964年東京オリンピックの時は聖火リレーが市内を通過したこともあり、道路に商品等がはみださないよう呼びかけをしていたそうです、

・2020年東京オリンピック・パラリンピックを機会に広告物や看板、商品が道路にはみ出さないように整序を行うべきと考えますがいかがでしょうか？

鎌倉駅周辺だけではなく、

・平成28年度は「深沢のまちづくり」「山崎のゴミ焼却施設」「市役所本庁舎の整備方針及び拠点校の選定」とインパクトのあるものの検討が予定されています。野村総研跡地、扇湖山荘などの未利用施設も含め鎌倉市全体のまちづくりの方向性を見極めてゆく時期と考えますがいかがでしょうか？

次に、大船駅東口の再開発事業について質問させていただきます。

昭和47年、私が10歳、まだ小学生の頃、全国第1号で大船駅東口市街地再開発事業の都市計画決定が行われ、平成2年に再開発ビル工事が着工され平成4年、私が30歳、高校の教壇に立っていた頃に大船駅東口第1種市街地再開発事業第一地区事業の工事が完了しました。

再開発がされる前の大船駅東口といえば、道路の角に鎮座する本屋とその隣の中華そば屋そして狭い駅前、狭い通路でタクシー待ちをする人の列と決して時間通りにやっこないバス、車は常に渋滞し、特に駅前の道路において雨の日は、傘をさして歩く人とバスとが接触しそうなほど接近して危険な場所でした。また、

J R大船駅東口と湘南モノレール大船駅とが若干離れており、最初は現在とは別の場所に湘南モノレール大船駅への入り口がありました。のちに両者をむすぶ通路が設置され、雨風にさらされずに両駅の行き来ができるようにはなりましたが、狭く長い通路を歩かされ違和感があったことを覚えております。

再開発の工事が進むにつれて、駅前の道路は大幅に拡張されて歩行者の歩くスペースが確保され、駅前のバスロータリーができて時間どおりにバスが発車するようになり、タクシー乗り場も整備され、J R大船駅と湘南モノレール大船駅をつなぐ長い通路は大型商業施設の販売スペースやビル横の通路へと姿をかえてきました。大船駅東口第1種市街地再開発事業第一地区事業が行われたことによってこの地区内に存在した多くの問題が解決したと思います。

しかしながら第2地区の事業はいまだ手つかずのまま、当初の都市計画決定から40年以上が経過してしまいました。工事費高騰の中、事業実施のタイミングを見極めているようですが、権利者の中には再開発事業に反対の権利者もいると聞いています。再開発事業は、公共施設の整備と地域や権利者の課題を解決するものだと思いますが、

・権利者の高齢化が進んでいる中、40年以上前の都市計画事業の市施行第1種再開発事業にこだわらず、速やかにこれらの課題を解決するやり方もあるのではないかと思います。

工事費高騰の推移を見ながらも、そのような今の時代にあった課題解決策を探る必要もあると思いますがいかがでしょうか？

次に深沢の整備事業についてお伺いします。

深沢地域整備事業は、一昨年の12月議会に出された、まちづくり団体からの陳情が採択されたこと、また都市計画決定の公聴会などで、市民への十分な説明が不足していたなどとして、昨年1年間、市では市民を交えた意見交換会などを丁寧に行ってきたと聞いています。

一方で、

・事業区域内の権利者との面談や説明会では、まちづくり団体からの陳情などもあり、事業が遅れていることについて、将来の生活設計ができないなど、事業の遅れを指摘する声が多く上がっているとも聞いておりますが、権利者からはどのような意向が示されているのでしょうか？

・また、市として、これら権利者の意向をどのように捉え、対応しようとしているのか教えてください。

深沢地域整備事業では、鎌倉市の抱える様々な課題を解決する事が期待されており、夢のある、まさに鎌倉夢プロジェクトだと考えています。

歴史的な魅力を残しながら、鎌倉らしい特色のあるまちを創り、そこに市民が

集まり、そして住い、働く、そのようなコミュニティを創造しながら、様々な行政課題を創造的に解決してゆく、つまり、ネガティブに捉えるのではなく、ポジティブに、発展的に解決できる可能性があるまちづくりをしていただきたいと思います。

・深沢地域整備事業では、新駅も含めたまちの基盤づくりに、一定の投資が必要となりますが、そこから得られるものは計り知れず、将来の鎌倉市を担う極めて重要な事業であると考えておりますがいかがですか？

### 【産業振興】

次に鎌倉の農業の振興についてお伺いします。

「鎌倉やさい」を扱う「鎌倉市農協連即売所」自体は約70年の歴史を持つ直売所で「レンバイ」と呼ばれ親しまれておりますが「鎌倉やさい」をブランド名としてとらえた場合、その歴史は浅いものです。

「鎌倉やさい」は京野菜について認知度が高いという調査結果もあるようですが、農業従事者の声をお聞きしますと「鎌倉やさい」の育成は決して楽な仕事ではないようです。

・「鎌倉やさい」というブランドイメージから人気があり販路も確保されているようですが、将来のことを見据えて、後継者の育成や地産地消の推進、鎌倉やさいを使用した新商品の開発等に支援も必要であると考えます。市として取り組むべき今後の施策にはどのようなものがありますか？お伺いします。

### 【観光】

次に鎌倉の観光についてお伺いします。

前述の鎌倉同人会会長であった陸奥<sup>むつひろ</sup>吉<sup>きち</sup>氏の妻イソはイギリス人でしたが、鎌倉を紹介する英字の案内書を自ら作成し、当時1,000人のイギリス人観光客を受け入れたとの記録が残されています。そうした先人の努力の上に現在の国際観光都市鎌倉が成り立っているのですが、鎌倉市を訪れる観光客は年々増加の一途をたどっています。その多くが旧鎌倉市内の観光や北鎌倉から鶴岡八幡宮への散策等、お決まりのルートをとっての日帰り観光を楽しんでいるように感じます。旧鎌倉市内においては増え続ける観光客の対応にインフラ整備が追い付かず、江ノ電鎌倉駅での入場者制限や、大仏前での交通渋滞などを引き起こし、改善に苦慮されているようです。

限られた空間と予算の中でこれらの問題を解決することは非常に困難であり、

・新たな観光ルートを増やすなど観光資源の発掘に努め、複数の観光ルートを効果的にPRすることが重要だと思っておりますがいかがですか？

・また、既存の観光ルートにどの程度の観光客が流れているのかを把握すること

も大切だと思います。そのようなデータを今後どのようにして集めてゆくつもりなのか教えてください。

・新たな観光基本計画を策定中だと思いますが、その主な内容について教えてください。

・観光客一人当たりの消費額を増やすためにも日帰り型観光地から滞在型観光地への移行は必須条件であると思われませんが、それについて市ではどのように考えているのかお伺いします。

次に鎌倉の観光について、とくに2020年東京オリンピック・パラリンピック開催にむけてのお考えを伺いします。

年々増え続ける外国人観光客は2020年のオリンピック・パラリンピック開催にむけてさらに増加されることは容易に想像できます。オリンピック対応に1.5億円との報道がありましたが、この予算で主にどのようなことに対応してゆく予定でしょうか？観光基盤の整備について質問させていただきます。

まずは

・観光案内所の移設場所とその移設時期について教えてください。また観光案内の機能については強化されるのかどうかについても教えてください。

・また、オリンピック開催時に限っての仮設の案内所の設置や案内人の確保などはどのようにする予定ですか？

・つぎに、公衆トイレの改修方針はどのようになっているのでしょうか？

・さらに外国人に対する案内、例えばサインやパンフレット・ガイドブックなどはどのようにされる予定ですか？

・そして、Wifi環境の充実はどのようにして図ってゆく予定ですか？

・また、外国人がバスや電車に乗れるような、わかりやすい案内についてはどのようにする予定ですか？

そして、観光基盤の整備も重要なことですが、

・オリンピック・パラリンピックに向けては市民の盛り上がりも重要であると考えます。前回の東京オリンピックの時を振り返ってみれば、街をきれいにする。気持ちよく外国人を迎えるなど、市と市民がともにオリンピックに向けて取り組んできたようです。2020年の東京オリンピック・パラリンピックではどのようなことを考えておりますか？

次に民泊など2020年東京オリンピック・パラリンピック開催時に海外から訪れた方々に対する対応等についてお伺いします。

昨年12月に東京都の大田区議会で民泊条例が可決し、この条例に則して手続きが行われました。これで大田区は正式に民泊に動きだします。条例としては大阪府に続き2例目ですが、運用については大田区が日本初ということになります。



大田区の条例を詳しく見てみますと、最短宿泊日数が 7 日であることや、近隣住民への周知義務など、旅館業法による宿泊条件とは異なるハードルがあることがわかりますが、増え続ける外国人観光客への対応、特に 2020 年開催の東京オリンピック・パラリンピックに向けての対応、さらには空き家問題の解決策としてこの「民泊」という制度を活用する意義は十分にあると考えます。

1964 年東京オリンピックの開催時には、フランス柔道の有段者 150 人が「ありのままのお寺の生活を体験したい」という希望を出し、材木座の光明寺が引き受けてくれたことによりフランス人 150 人が 1 週間宿泊したそうです。

また、短時間の外国人訪問客の受け入れ、いわゆるホームビジットシステムや鎌倉独自の制度として、オリンピック開催中に外国人の宿泊を受入れてくれる一般家庭の募集も行っていたようです。

ホームビジットシステムについては、1964 年 2 月の段階で 15 家庭が登録され、原則は無報酬ですが菓子代や掃除代などの費用として千円が支給されることになっていました。 「見せる観光」から一歩進めた「心の観光」を目指して 1961 年からスタートしたのが、ホームビジットシステムということです。かなり以前から考えられていたシステムで、その後は衰退してしまった経緯を考えますとその原因を探る必要性はありますが、2020 年東京オリンピック・パラリンピック開催を契機にしてこのシステムを再度検討する価値があるように思います。

・鎌倉市においても「民泊」を始めとして外国からこられた方に滞在してもらう方法を検討すべきではないでしょうか？

・また、東京オリンピックの時のようにホームビジットシステムを取り入れるお考えはありませんか？お伺いします。

### 【勤労福祉】

次に、鎌倉市における企業誘致政策についてお伺いします。

鎌倉市では「本市産業の興隆、市勢の伸展を図る」ことを目的とし、昭和 28 年に鎌倉市企業誘致条例が制定されました。昭和 36 年に廃止されるまで、この条例により市税の減免や奨励金の交付措置により、積極的に企業の誘致や既設工場の拡張の支援を行い、大船、深沢地区に大企業の工場が相次いで進出するなど、現在の都市構造を造るとともに、財政基盤を築く重要な役割を果たしました。

また工業関係では鎌倉工業団地協同組合が設立され、市内中小工場の団地造成計画がスタートしましたが、第 1 次オイルショックという外因に、一部用地取得が不調に終わり実現できませんでした。このことから鎌倉市における土地特性からの企業誘致・展開の難しさも見え隠れします。

では、現在鎌倉市は企業からいくらの収入、つまり税金を得ているのでしょうか。

鎌倉市の市税収入において法人税の占める割合が非常に低いことは有名です。

そのパーセンテージは昭和60年から遡ってみても、高く約6~7%、だいたい約4~5%を推移し、平成27年度は約5%にも満たない数字となっています。対照的に個人からの市税は高く、こちらは約50%前後を推移しており、平成27年度は約45%となっています。

個人からの市税収入が高いことは鎌倉市の特徴でもあります。これは景気にあまり左右されず税収入が見込める点や、街の風致を維持することにも一役を担っていることから、鎌倉という街の特性には合っている面も多いと考えます。

では、法人税はこのまま低い状態で良いのでしょうか。今後人口減少が加速していく中で個人市民税は徐々に減っていくことが考えられます。そのような中で自治体に課せられた使命のひとつは「稼げる自治体になる」ことがあげられます。様々な収入を増やす施策が考えられる中、歴史的背景からもその難しさは理解しているところではありますが、パーセンテージが低さゆえに1%でもあがれば収入増が見込める点と、働き方の在り方が多様化している今だからこそ、その可能性がまだ残っていると考えます。

そこで

・これからの企業誘致に対するお考えをお聞かせください

また、近年ではベンチャー企業の創業も増える中、大きな土地を必要としないIT関連の職種など、鎌倉の地域特性にあった会社を起業する若い方々が集まり、全国的にも注目を集めています。しかし、事業が大きくなるにつれ、鎌倉市で事業展開をする壁に阻まれ他都市への転出もあると聞きます。

・誘致ももちろん重要ですが、既存の市内事業者が他都市へ転出しないための支援、例えば事業拡大時の支援が必要だと考えますがいかがでしょうか。

これまで鎌倉は住むところ、働くところは別、という意識が先行しているところがあるように感じます。それは住環境を守りたいという意識の表れだと考えますが、先程来のご紹介のように大きな土地を必要とする企業ばかりではなくなった今では、住むことと働くことは同じ場所でできるチャンスも増えています。また、鎌倉から都内まで約1時間、地域によってはそれ以上の時間を要する中で、長い通勤時間を苦に転出する人がいるということも聞き及んでいます。そこで伺います。

・今後予想される人口減少に歯止めをかけるには、雇用の場を創出する必要があると考えますが、どの様な対策を考えているか教えて下さい。

次に女性の働く環境について伺います。

日本の女性の労働力率（15歳以上人口に占める労働力人口（就業者+完全失業者）の割合）は、結婚・出産期に当たる年代に一旦低下し、育児が落ち着いた時期に再び上昇するという、いわゆるM字カーブを描くことが顕著であります。つ

まり、出産・育児期にあたる 30 歳代で就業率が落ち込み、子育てが一段落した後  
に再就職する人が多いことを反映しています。

総務省「労働力調査（詳細集計）」（平成 24 年）によれば、非労働力人口の女性  
のうち 303 万人がなお就労を希望しており、そのうちの半分以上に当たる 161 万  
人は 25～44 歳の年齢階級に属しており、25～44 歳の女性の人口に対する割合は  
9.6%に及んでいるそうです。つまり、制度が整ってさえいけば就労意欲のある子  
育て世代の女性も多いということです。鎌倉市も例外ではなく、子ども・子育て  
きらきらプラン内では子育て中の方への就労ニーズ調査によると、現在就労して  
いない方の 15.4%がすぐにでも、1年以内に、50.9%が一番下の子どもが有る程  
度の年齢になったら働きたい、となっており、65%以上の方に就労意欲があるこ  
とが分かります。この数字は今後ますます上がっていくことが考えられます。  
今すぐの就労希望者への後押しをすることは急務ですが、ニーズ調査にもあるよ  
うに、今は子育てに専念し、いずれは何かしらの形で働きたいと思われている方  
が多いのも事実です。

しかし、離職期間が長くなれば長くなるほど、元のキャリアを活かせる仕事に  
は就くことはできず、職の選択肢は狭まります。そのような点からも、短時間労  
働が可能な環境を作り、空白時間を減らすなど、途切れない支援が必要とも言え  
ます。以上の点からも出産や子育て、介護等から離職された女性の仕事復帰でき  
る様な支援も重要でないかと考えます。

・ 出産や子育て、介護等から離職された女性の仕事復帰ができる様な支援に対す  
る考え方について教えてください。

本市のように企業誘致の為に利用できる大きな土地がなく、さらに、今後さら  
なる若い方の起業を促進し、多様な働き方を提供するため、また、市内に雇用の  
場を創出することはこの様な環境下の女性へも大きな支援になると考えます。

・ サテライトオフィスの誘致やシェアオフィスなどの支援が効果的でないかと考  
えますがいかがでしょうか。

・ また、子育て施設などを併設した複合施設型の可能性についてはいかがでしょ  
うか。

今回は「温故知新」をテーマにして、質問をさせていただきました。古くからの  
伝えを大切にして、新しい知識を得てゆくことができれば、人を教える師となる  
ことができるでしょう、という孔子の言葉。いつの時代にも不変の哲学として私  
たちを支えてくれる言葉です。

松尾市長は予算案、提案説明の際に

「海や山など素晴らしい自然、多くの社寺などの歴史的遺産、そして地域の課題

を自分ごととして捉えて、その解決のために積極的に行動する鎌倉を愛する市民の方々など、素晴らしい環境を持つこのまちで、子どもたちが元気にそして健やかに「鎌倉」でしかできない貴重な体験を重ねながら成長していく、そんなまちの姿を思い描いている」と述べています。市長には鎌倉をそのようまちにするために、今後も温故知新の哲学に基づいて人を教える師であり続けていただきたいと思います。

以上をもちまして、私たち会派の登壇しての質問を終わらせていただきます。